

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	3-2-3	事業名	誰もが歩きやすい歩行空間ネットワーク創出事業																							
達成目標の状況																										
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)																				
重点整備地区バリアフリー化率 (当初指定された重点整備地区 3地区)	71%	82%	88%	90%	100%	100%																				
あんしん歩行エリア等の形成数	9エリア	9エリア	10エリア	10エリア	10エリア	12エリア																				
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)																										
<p>市民との連携、市民参加 「あんしん歩行エリア」の整備にあたり、有識者、市民、関係機関からなる委員会を組織しており、地域住民によるまち歩きやヒヤリマップの作成などを踏まえて、整備計画を策定している。現在は、地区の代表者も含めて「連絡協議会」として、対策の実施状況とその効果や、地域での取り組みの情報共有を行っている。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] [人材協力] [情報協力] [その他の協力]交通事業者(JR・バス)や警察が実施するバリアフリー化(駅、バス、信号機等)との相乗効果が期待できる。</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり 国道管理者やJR、警察等とバリアフリー化に関する情報の共有化を図っている。また事業の進捗状況を札幌市のホームページで公開している。</p>																										
評価(成果)			課題																							
<p>平成21年度は、重点整備地区の特定経路として延長0.3kmの歩道バリアフリー化を実施し、バリアフリー化率を約9割とした。これにより、高齢者や障がい者が安心・安全に歩行できる空間を拡充することができた。</p> <p>また、平成20年度末に新たに策定した「新・札幌市バリアフリー基本構想」に基づく道路整備計画のアクションプランとして、「道路特定事業計画」の検討を行った。</p> <p>「あんしん歩行エリア」の推進により、ハード面での対策の他、地域住民によるまち歩きやワークショップを通して地域の危険な箇所を示した「ヒヤリハットマップ」を作成したほか、路上駐車対策の実施、自転車マナー啓発チラシを配布するなど、交通安全への意識向上が図られた。</p>			<p>平成20年度に策定された「新・札幌市バリアフリー基本構想」では、重点整備地区数がこれまでの3地区から53地区に拡大され、これに伴い整備すべき生活関連経路も大幅に延長された。</p> <p>高齢化が進展する札幌の将来においても、誰もが安全で歩きやすい歩道空間のネットワークを確保するためには、新たに指定された重点整備地区50地区においても、歩道のバリアフリー化等を早期に完了させる必要があり、継続的な事業費の確保と執行体制の強化が今後の課題となる。</p>																							
今後の事業の予定・方向																										
<p>歩道のバリアフリー化については、これまで平成15年度当初に指定された重点整備地区3地区について、平成22年の事業完了を目指して整備を進めてきた結果、3地区での平成21年度末整備率は約9割となった。しかし、平成20年度に策定された「新・札幌市バリアフリー基本構想」では、重点整備地区が53地区に拡大され、これに伴い整備すべき生活関連経路も大幅に延長された。</p> <p>このため、平成21年度に検討した「道路特定事業計画」では、経路のネットワーク化を早期に実現し事業効果を十分に発揮できるよう、整備は重点的かつ集中的に進めることとした。</p> <p>また、「あんしん歩行エリア」の整備については、現社会資本重点整備計画は平成15年度～19年度となっているが、歩行環境の整備・改善についての高い国民ニーズに鑑み、警察庁・国土交通省から、次期についても引き続き同様の取り組みを進める旨の通知が発せられ、平成20年度は当初から継続している4地区に新たなエリアを1地区追加して計5地区での指定を受けた。</p>																										
<p>[平成20年度指定エリア]</p> <table border="0"> <tr> <td>札幌駅大通地区</td> <td>完了</td> <td>手稲駅周辺地区</td> <td>継続</td> </tr> <tr> <td>麻生地区</td> <td>完了</td> <td>桑園地区</td> <td>継続</td> </tr> <tr> <td>新琴似地区</td> <td>完了</td> <td>南平岸地区</td> <td>継続</td> </tr> <tr> <td>西野発寒地区</td> <td>完了</td> <td>厚別中央地区</td> <td>継続</td> </tr> <tr> <td>南郷通地区</td> <td>完了</td> <td>清田地区</td> <td>新規</td> </tr> </table>							札幌駅大通地区	完了	手稲駅周辺地区	継続	麻生地区	完了	桑園地区	継続	新琴似地区	完了	南平岸地区	継続	西野発寒地区	完了	厚別中央地区	継続	南郷通地区	完了	清田地区	新規
札幌駅大通地区	完了	手稲駅周辺地区	継続																							
麻生地区	完了	桑園地区	継続																							
新琴似地区	完了	南平岸地区	継続																							
西野発寒地区	完了	厚別中央地区	継続																							
南郷通地区	完了	清田地区	新規																							

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		3-2-3		事業名		誰もが歩きやすい歩行空間ネットワーク創出事業							
事業費の推移													
項目		19年度		20年度		21年度		22年度		計			
計画	事業費		1,274,000		800,000		800,000		800,000		3,674,000		
	財源内訳	国・道支出金		465,000		400,000		400,000		400,000		1,665,000	
		市の債		434,000		180,000		180,000		180,000		974,000	
		その他の		0		0		0		0		0	
一般財源		375,000		220,000		220,000		220,000		1,035,000			
予算	事業費		1,274,000		1,094,000		1,141,000		1,645,000		5,154,000		
	財源内訳	国・道支出金		465,000		430,000		474,000		629,000		1,998,000	
		市の債		434,000		404,000		430,000		891,000		2,159,000	
		その他の		0		0		0		24,000		24,000	
一般財源		375,000		260,000		237,000		101,000		973,000			
実績	事業費		1,294,394		1,191,306		990,682		-		3,476,382		
	財源内訳	国・道支出金		465,000		430,000		474,000		-		1,369,000	
		市の債		538,067		479,200		424,000		-		1,441,267	
		その他の		0		0		0		-		0	
一般財源		291,327		282,106		92,682		-		666,115			
事業費の進捗率			(H19実績 + H20実績 + H21実績 + H22予算事業費) / (計画事業費)							139.4%			
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)													
(全体)													
[19年度]													
[20年度]													
[21年度]													
[22年度]													